

学生の創造性を伸ばす「C-Cubic」

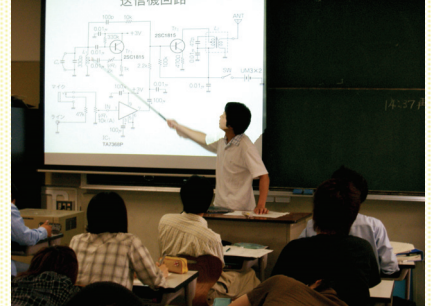
C-Cubic = C³ は、シーキュービックと読みます。



図書館で調査



発表準備



発表会(回路設計状況の報告)

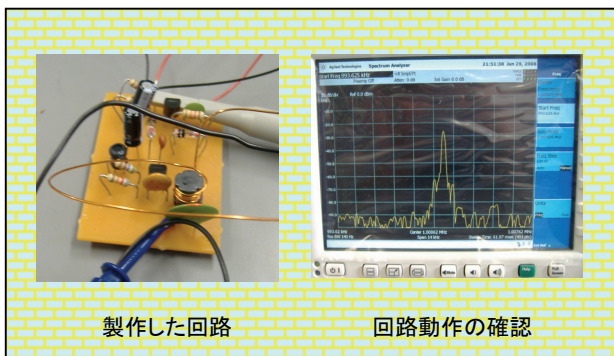
電気電子工学科では、第4学年の学生実験の前期分をPBL*の時間とし、学生の創造性を育むための教育を行っています。

このPBLは、各グループが電子回路技術(Circuit)によって通信装置(Communication)や、制御装置(Control)を設計・作成することを課題としていることからC³(C-Cubic)と呼んでいます。各グループは①社会と電気電子工学技術、②計画書、③設計書、④中間発表(ppt)、⑤最終報告書、⑥最終発表(ppt)という6通の報告書を提出します(pptは発表原稿と発表です)。

*PBLとは、Project(/Problem) based Learning のことで、『**実社会で役に立つプロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法**』です。

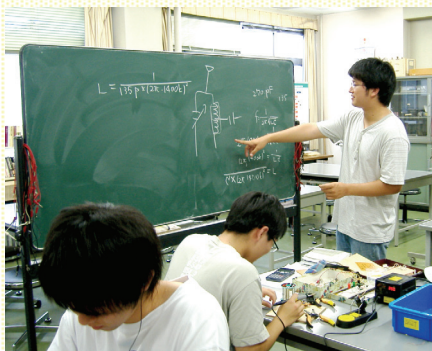
測定装置の整備には校長リーダーシップ経費からの支援も受けた、期待の教育方法です。

2006年度はこの教育の初年度であり、予定通り進まない週もあり苦労しましたが、最後には集中力を発揮して、どのグループの装置も動作が確認できました。学生の評判も良く、バージョンアップしながら毎年実施しています。

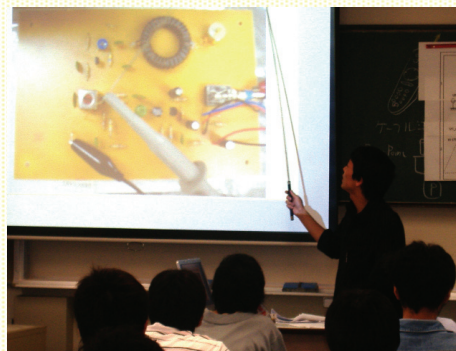


製作した回路

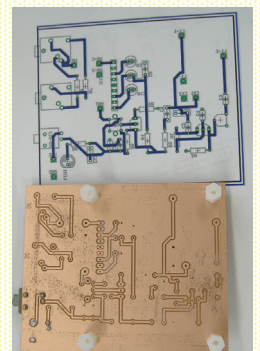
回路動作の確認



回路動作を検討しながら組立てる



最終発表会(設計から回路動作の検証まで)



加工した基板